

第35回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年7月1日（木）18：00～19：30
2. 会場：庁議室
3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）
金井 忠男	埼玉県医師会 会長
川名 明彦	防衛医科大学校 教授（WEB参加）
坂木 晴世	国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB参加）
竹田 晋浩	かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）
松田 久美子	埼玉県看護協会 会長
4. 県側参加者

大野 元裕	知事
安藤 宏	危機管理防災部長（WEB参加）
山崎 達也	福祉部長（WEB参加）
関本 建二	保健医療部長
星 永進	保健医療部 参事
本多 麻夫	保健医療部 参事
岸本 剛	衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 大阪と同様に、若い方が重症化するのではないかと懸念している。当院では、初めて 30 代でエクモによる治療が必要な患者が発生した。若いから大丈夫だという感覚は持たない方がいい。（竹田委員）
- 入院患者が低年齢層化している中で、仮に重症化率が下がらないということがあれば、それは非常に深刻な事態である。重症化率については、入院患者の低年齢層化を踏まえて慎重に判断すべき。（川名委員）

イ 高齢者施設を対象とした PCR 検査について

- 高齢者施設職員を対象としたスクリーニング検査について、陽性率が極めて低いため、他にリソースを向けていくのは妥当と考える。（川名委員、坂木委員）
- 高齢者施設でのワクチン接種率が高くなれば、これ以上陽性率が高くなることはないのではないかと。症状が出た方に対する早期の検査、対応が重要になってくる。（岡部委員）

ウ 新型コロナウイルスワクチン接種について

- 国から、県の大規模接種会場においてファイザー社製ワクチンを活用するようにとの方針が示されたが、モデルナ社製ワクチンが足りないからと、ファイザー社製ワクチンを使用することは本末転倒である。（金井委員）
- 職域接種を進めるために、県の大規模接種用のワクチンが足りなくなるとすればそれは本末転倒である。（川名委員）
- ブランクがあったり、年齢が高かったり、現場とのギャップがある打ち手について、接種による重大な事故を発生させないよう、各研修や現場で注意徹底すべき。（松田委員）